



学校法人永原学園
 さんこう児童クラブ通信
 令和8年6月発行
 — 第3号 —
 【三光幼稚園】
 TEL:0952-31-0753
 【さんこう児童クラブ携帯】
 TEL:090-7430-1312

小学校訪問 (Ⅱ)

5月は佐賀市内6校の、1年生の授業を参観しました。今回は小規模、大規模共に35~38人学級でした。10年ほど前を振り返ってみると、席を立つ子、担任の話の途中でもお構いなく自分の疑問をぶつける子等々、幼保から小学校の授業にうまく移行できない姿が見られていましたが、訪問した学校では子どもたちが席に座り、先生の話に耳を傾けています。手元にある教科書を見ながら応える子、黒板の横に設置された大きな画面に見入る子、隣の席の子に確認する子等、自分に合った学び方をしていました。そして、音楽の授業や体育の授業では、自由に体で表現してもいいよと先生から助言があると、リズムに合わせてダンスを入れたり、手拍子をしたりと、幼保の現場では日常的に見られた光景が見られました。一方、生活科の授業では、「〇〇をみつけたよ」のテーマの下、見つけた虫や草花、木の実等、その特徴を文字や絵に描いて、自校の自然環境に関心が向くような配慮が見られました。子どもたちが季節ごとに見せた、〇〇ブーム(例えばダンゴムシ探し、幼虫探し)の際の姿が蘇ります。

小学校で用意された接続期の授業が、子ども達の楽しい!面白い!学びの意欲に繋がります。

6月の目標「暑さ対策をしよう」

急激に熱くなりました。クラブでもこまめな水分補給や適度な休憩をしながら過ごしていきます(^o^)

【お願い】

ロッカーに保管している着替えの中身の入れ替えをよろしくお願い致します。(半袖・半ズボン・下着・靴下等)

また、今後、汗をかくことが増えてきますので、まだ持ってきていない方は、ご持参ください!

6月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数
1年生	16	0	16	0
2年生	12	0	12	0
3年生	2	0	2	0
計	30	0	30	0

【★自然遊びブーム★】

一気に夏モード到来で、なかなか戸外遊びに出かけられなくなってきました。まだ暑くなる前、子どもたちは中庭とあすなろ広場で友達と秘密基地を作ったり、虫探しと観察に夢中になったりする姿が見られていました。時には、違う遊びに参加したりしながらいろいろな友達との交流が盛んです♪

【発見】

～虫探し～



トンボがいたよー!!

一目散で友達に知らせに★

【観察】



捕まえた虫をみんなで観察!
 知っている知識を伝え合います♪

【まとめ】

ダンゴムシの観察画を描いたよ♪

見たままに書き写し、ダンゴムシの体の特徴や動きを表現していました!



～自然遊びでは～



梅を拾ったり



焚火を作ったり



友達と役割を決めて分担し、協力して遊ぶことを楽しんでいました♡

これからも夢中になって遊んでほしいです(*^^*)

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

幼児期の生活リズムが“学びの力”を育てる ～小学生以降の集中力と睡眠とのつながり～

西九州大学看護学部看護学科 山田由佳

「小学校に上がったら、45分間きちんと座っていられるかな」「先生の話最後まで聞けるだろうか」——そんな思いを抱いたことはありませんか。集中力や落ち着きは、生まれつきの性格で決まると思われがちです。しかしながら、近年の研究では、幼児期の生活リズムが、その後の学習態度や自己調整力、情緒の安定と関連していることが示されています。

つまり、毎日の“寝る・起きる・食べる”という基本的な習慣こそが、小学校以降の学びを支える土台づくりにつながっています。幼児期は知識を増やす時期というより、「学ぶ準備」を整える大切な時期です。だからこそ、今の生活習慣を未来へのやさしい贈り物にしてあげたいですね。

子どもの脳は、睡眠中にその日の経験を整理し、記憶として定着させています。とりわけノンレム睡眠は記憶固定や感情調整に関与するとされます。また、睡眠不足や就寝時刻の遅れは、注意機能や実行機能の低下と関連することが報告されています。実行機能とは、目標に向かって行動を調整する力で、「話を聞く」「順番を待つ」「気持ちを切り替える」など、小学校以降の学びを支える基盤的能力ですから、幼いうちから睡眠と生活リズムを整えることがいかにその後の学びの力につながるか、考えさせられます。

日本小児保健協会による『幼児健康度調査』では、就寝時刻の遅れや睡眠時間の短縮が生活リズムの乱れと関連し、日中の不機嫌や集中困難と関係する傾向が示されています。また、文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」でも、基本的な生活習慣が学習態度の形成に影響することが指摘されています。

人には概日リズム（体内時計）があり、朝の光によってリセットされます。夜間の強い光は睡眠ホルモンであるメラトニン分泌を抑制することが知られており、就寝前のメディア使用が入眠を遅らせる一因となります。これは保護者のみなさんも、体感としてご存じではないでしょうか。私も耳が痛いです。

幼児期は知識量を増やす段階というより、学びに向かう姿勢や自己調整力を育む準備期です。まずは、①同じ時間に寝起きする、②就寝前1時間は強い光を避ける、③朝は光を浴びる、という基本から意識してみましょう。完璧でなくても大丈夫です。日々の積み重ねが、子どもたちの未来の学びと心の安定を支えていきます。私も日ごろから、夜間はなるべくスマホを手を取ることをやめ、自分の睡眠を確保して子どもたちに大らかに向き合えるよう、意識しています。

【参考文献】

- ・日本小児保健協会. 第17回幼児健康度調査報告書.
- ・文部科学省. 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について.
- ・Carskadon MA. Sleep in children and adolescents: implications for learning and behavior.